

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年二月度 入選句（投稿総数三千百十句・小中学投句数二千六百五十五句）

特選

カルタとりとつてとられてとり返す 大垣市 近藤 克哉(小六)

カルタとりと言えば、お正月ならではの遊びの一つです。家族でカルタを囲み、読み手の声に素早く反応する様子が目に浮かびます。取ったかと思うと取られて、次はとり返すぞと思うと取られて次はとり返すぞと前かがみになっていくところが想像されて、楽しさの中の真剣さも伝わってきます。「とつてとられて」の中七と下五の「とり返す」が、俳句にリズム感を加え、明るく元気な一句になりました。

おもちつきおいしくなれとちからこめ 大垣市 原 しおり(小二)

お正月に食べるおもちを交代でついているのでしよう。杵(きね)をふりおろしているのはお父さんでしょうか。家族のために力いっぱいおもちをつく息の音やかけ声、ペタンペタンという音も聞こえてきそうです。「おいしくなれ」という作者の願いがまつた中七が、この一句に力を加えています。おいしいおもちをお腹いっぱい食べられたことではよう。

おせち作り手つだいながらつまみ食い 大垣市 松本 浩志(小二)

お正月を迎える準備にはさまざまなものがありますが、おせち作りを楽しんでいる様子が伝わってきます。時間をかけて少しずつおせち料理ができ上がるのを手伝いながら、お母さんからおせちの作り方を教えてもらっているのですね。下五の「つまみ食い」が、この一句を明るくしています。お母さんの味で笑顔が生まれたことではよう。

秀逸

二重とび寒空のしたねばる君 大垣市 さとう しゅん(小二)

なべかこむ家族の笑顔そろう夜 大垣市 茂木 颯馬(小六)

目と鼻がくつついている福笑い 小川 未夢(小四)

雪溶けて心残りも消えていく 美濃加茂市 松下 心結(中三)

心決めすみたっぷりと筆始め 大垣市 高木 まこ(十五)

かなしいのないてる見たいつららさん 大垣市 中村 瑚乃羽(小二)

おじいちゃん花見に行くよ手をひくよ 大垣市 高橋 功多(小二)

北風が足元とおる登下校 大垣市 松岡 優奈(小五)

さわやかな春風にのり鼻歌を 大垣市 山田 優杏(小五)

けいとあむなにができるかおたのしみ 大垣市 わたなべ しずく(小二)

入選

さむい朝山のてっぺんゆきげしよう 大垣市 日向 脩一(小二)
 初日のお日さまゆつくり山登る 大垣市 川村 菜々(小六)
 初雪だ小まどをあけてみとれてる 大垣市 高橋 雅(小六)
 ふくわらい目がとびでたよ大わらい 大垣市 織田 優花(小三)
 はしゃいでる雪と弟笑顔咲く 美濃加茂市 今井 歩玲(中三)
 ひとこぎに魂込める氷道 美濃加茂市 坂井 千乃(中三)
 手を合わせ幸せ願う初詣 美濃加茂市 永原 愛海(中三)
 足下に小さく輝く霜柱 大垣市 山岡 賢大(中三)
 春の風えの具をつけてふでおどる 大垣市 松宮 拓哉(十五)
 こままわしどちらがながくまわるかな 大垣市 三き かなめ(小一)

入選

ゆきだるまとけずにいてねかえるまで 大垣市 大塚 彩友美(小二)
 つうがくろこおりにうつるへんなかお 大垣市 田中 昭成(小二)
 おみやげのよもぎだんごをもう一本 大垣市 小川 誠悟(小二)
 ゆきだるまにんじやみたいにすがたけす 大垣市 棚橋 蒼(小二)
 クローバー少し芽を出し春近し 大垣市 上野 真麻(小五)
 書き初めで一画一画しん重に 大垣市 安田 真菜(小五)
 たこあげにねがいをのせて空たかく 大垣市 大橋 叶夢(小五)
 いってきますとけずにまっけて雪だるま 大垣市 宇納 乙葉(小二)
 雪だるま作ってとけてのくりかえし 大垣市 斗内 音瑠(小二)
 ゆきだるま三つつくって三きようだい 大垣市 いとう そな(小二)

選者吟

水温むオカリナの下の音のばし

佐知子